



令和7年9月定例会 活動報告

さいたま市議会令和7年度9月定例会は、9月3日から10月17日まで45日間にわたり開催されました。

今定例会において、私は所属する市民生活委員会で議案および請願の審査、議案外質問を行いました。

また、決算特別委員会では令和6年度決算の審議が行われ、慎重な審査を重ねました。



廃食用油を回収し 再利用を！

現在、家庭で使い終わった食用油の多くは「燃えるごみ」として捨てられていますが、焼却による環境負荷や水質汚染が懸念されています。全国では60～70の自治体が廃油を回収し、バイオディーゼル燃料(BDF)や航空燃料(SAF)として再利用する取り組みを進めています。

京都市では市バスの燃料に、東京都では航空燃料への再生を目指したキャンペーンが展開されており、環境保全と市民意識の向上に貢献しています。埼玉県入間市では、スマホアプリを使って廃油回収に参加すると「脱炭素ポイント」がもらえる実証実験も行われています。

廃油の再利用は、ごみの減量とCO₂削減につながる、持続可能な社会への大きな一歩です。本市でもこのような取り組みを実施すべきと訴えました。



困難を抱える女性へ より細やかな支援を！

令和6年4月、「困難な問題を抱える女性への支援法」が施行されました。さいたま市では、DVや性暴力、生活困窮などに対応する相談窓口や法律相談、同行支援などを実施しています。

しかし、近年、若年女性の孤立や外国籍女性の言語の壁など、支援の多様化が求められています。本市としても、民間団体との連携やLINE相談、居住・就労支援などと連携し、より細やかな支援体制の強化と生活基盤の安定に向けた伴走型支援を求めました。

誰もが安心して相談できる環境づくりを進め、誰一人取り残さない社会を目指します。



私たちの提案から実証実験へ

私たちは、高齢者や子育て世帯、障がいのある方をはじめ、すべての市民が安心して移動できるまちを実現するために取り組んでいます。グリーンスローモビリティやデマンド型乗合タクシー、コミュニティバスなど、多様な移動手段を組み合わせ、生活の足をしっかりと確保します。

また、病院や買い物施設へのアクセス向上、交通空白地域の解消など、日常生活に直結する利便性の高い都市交通の整備を進め、持続可能な仕組みをめざしています。

グリーンスローモビリティ 実証実験（浦和区）



グリスロは、時速 20キロ未満で走行可能な電動車を利用した、移動サービスです。

コンパクトで低速の車両であるため、地域内の交通手段として利用できるだけでなく、コミュニケーションツールとしての役割も期待されています。

自動運転バス 実証実験（桜区）



バス本数が多い路線で、大型バスの自動運転レベル4の実装を目指します。

令和7年度では、市内で初めて大型バスによる実証実験を自動運転レベル2で実施し、実装に向けた経営面・技術面・社会受容性面の課題を整理します。

『小学校給食費の無償化』円滑導入を

令和7年6月に「給食費無償化」が閣議決定されました。

給食は、子どもたちの健やかな成長を支える大切な学校教育の一環であり、その無償化は長年、市民から強い関心が寄せられてきた課題です。物価高騰が続くなか、子育て世帯の家計における教育費や生活費の負担は増加しており、給食費無償化はその軽減に直結する、極めて重要な施策です。

公明党さいたま市議会議員団として、子どもたち一人ひとりが安心して学校生活を送れるよう、円滑な制度の実施に向けて万全の体制を整えるよう強く求めました。



「令和8年度予算編成ならびに施策に関する要望書」を提出

来年度の予算編成にあたり、公明党市議団は164項目の要望書を提出いたしました。

主な要望事項

- 生成AI、自律型AIエージェントの活用を通し、さらなる行政のDX化を進めること。
- 在宅避難者の情報を迅速に把握できるように、避難者カードの登録、安否確認に、防災アプリを使用すること。
- 補聴器購入費用の助成制度を創設すること。
- 家庭用防犯カメラ・防犯グッズの購入補助を行うこと。
- 注射器を使わない経鼻ワクチンを小児インフルエンザワクチンの接種助成に加えること。
- 小学校児童の朝預かりを実現すること。
- 全天候型こどもの遊び場を設置すること。
- 0～2歳児の保育の無償化を進めること。
- 高齢者おでかけ支援制度を創設すること。

予算要望書
全文はこちら

